

会議名	令和 7 年度公立羽咋病院改革プラン評価委員会
日 時	令和 7 年 1 2 月 1 1 (木) 15:00～16 : 15
場 所	公立羽咋病院 講義室
出席者	(委 員) 委員長：金子 周一 (金沢大学大学院医薬保険学総合研究科・医薬保険学類 情報医学開発講座 特任教授) 委 員：池野 敬 (羽咋郡市医師会代表) 委 員：荒木 孝平 (地域団体代表) 委 員：嵐 公江 (地域団体代表) 委 員：岸 博一 (羽咋郡市広域圏事務組合組合長 病院担当理事) 委 員：鵜浦 雅志 (病院事業管理者) 委 員：湊崎 宇一郎 (院長) (事務局) 岡嶋事務局長、荒井副院長、東管理部門長、石山事務長、村井サービス情報部門 長、森本副総看護師長 (田島総看護師長欠席のため代理出席)、中村総務課参事 兼経営企画室室長、赤地総務課主幹兼経営企画室主幹 (書 記) 竹田総務課主幹
議 件	1. 令和 6 年度実績について 2. 公立羽咋病院経営強化プランの達成状況について 3. その他

※開会の挨拶に先立ち、石山事務長が配布資料の確認を行った。

○ あいさつ

石山事務長が会議の開始を宣言し、資料の確認を行いました。AI による自動音声システムを使用することが説明されました。鵜浦病院事業管理者は挨拶で、病院が 29 年連続黒字であったが令和 6 年度は赤字になったことを報告し、会議でのご意見を求めました。岸組合長は、公立羽咋病院の地域医療における重要性和、能登半島地震の影響や医療人材確保の難しさについて述べました。

○ 出席者紹介と委員長選任

石山事務長が出席者を紹介しました。委員として金子氏、池野氏、荒木氏、嵐氏が紹介され、組合側として岸病院担当理事(組合長)、鵜浦病院事業管理者、湊崎院長、その他病院職員が紹介されました。委員長には金子氏が選任されました。

○ 議件 1：令和 6 年度実績について

事務局から令和 6 年度の経営状況について報告がありました。医業収益は 31 億 8,908 万 4,000 円(前年度比 3.6%減)、内訳は入院収益 19 億 3,855 万 5,000 円、外来収益 11 億 5,920 万 1,000 円、その他医

業収益 9,132 万 8,000 円でした。医業外収益は 3 億 2,709 万 5,000 円で、経常収益は 35 億 1,617 万 9,000 円でした。支出では、医業費用は 34 億 6,071 万 2,000 円（前年度比 1%減）、医業外費用は 1 億 3,637 万 1,000 円で、経常費用は 35 億 9,708 万 3,000 円でした。経常損益は 8,090 万 4,000 円の赤字、最終的に 8,217 万 5,000 円の赤字となりました。

○ 議件 2：公立羽咋病院経営強化プランの達成状況について

事務局から経営強化プランの内容と達成状況について報告がありました。プランは令和 9 年度までの計画で、役割機能の最適化と連携強化、医師・看護師等の確保と働き方改革、経営形態の見直し、新興感染症対策、施設整備の最適化、経営の効率化等の取り組みが含まれています。特に、修学資金貸与制度や奨学金返還支援制度の導入、タスクシフト・シェアの推進、施設改修などの取り組みが紹介されました。数値目標については、地域救急貢献率、手術件数、逆紹介率は目標を達成したが、その他の項目は目標を下回りました。

○ 議件に対する質疑応答：

岸病院担当理事（組合長）から、地域救急貢献率や患者満足度の数値はどのように調べているのか、経常収支比率の解釈、未収金の状況、人員配置などについて質問があり、鶴浦事業管理者から地域救急貢献率について資料では大きな数値を示しているが、羽咋郡市内で発生した救急の約 7 割を当院が受け入れていること、患者満足度については、入院患者や外来患者に対して定期的に行われるアンケート調査結果であること、経常収支比率は 100 を超えると黒字であることが説明されました。村井サービス情報部門長から、未収金について保険証未提示の場合は少ないため国保等から入金についてはあるが個人負担分が未収金となっていると説明しました。

金子委員長から患者 1 人あたりの診療収入について質問があり、石山事務長が、入院分については令和 5 年度が 4 万 3,918 円、令和 6 年度は 4 万 4,630 円となっており、1 人あたり約 700 円アップ、外来については、令和 5 年度は 1 人あたり 1 万 1,772 円、令和 6 年度は 1 万 1,303 円となり 470 円減となっていると説明をしました。

嵐委員からは紹介率と逆紹介率の変動理由について、荒木委員からは外来患者数と外来収益の関係について質問がありました。鶴浦事業管理者からは、診療単価の変動や、コロナ禍以降の震災にもより患者数が完全に戻っていないことが赤字の要因の一つであるとの説明がありました。なお、人件費について、コロナ関連の補助金を職員に還元しており、その分の補助金がなくなったことで職員に支給する人件費は大きく変動があったように見えるが、実際に病院からの持ち出しが大きく変動したということではないとの説明もあった。

○ その他：

病院側から令和 7 年度上半期の入院患者数が前年同期比で 2,261 人増加していることが報告されました。また、補助金も見込まれることから、令和 7 年度は黒字化が期待できるとの見通しが示されました。金子委員長は、人口減少が進む中での経営改善の難しさを指摘しつつも、病院側の工夫を評価し、今後の取り組みに期待を示して会議を締めくくりました。